

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：12102

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2011～2013

課題番号：23650370

研究課題名(和文) スポーツにおける現象学的技術分析法の構築

研究課題名(英文) Construction of phenomenological analysis of technique in sport

研究代表者

佐野 淳 (SANO, Atsushi)

筑波大学・体育系・教授

研究者番号：50178802

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 700,000円、(間接経費) 210,000円

研究成果の概要(和文)：スポーツの動きは言うまでもなく人間の運動であり、そこにはフォームが現れる。このフォームはゲシュタルト(運動ゲシュタルト)を意味している。そしてこのゲシュタルトとしての人間の動きは自然科学的法則だけではなく、言語学的規則にも従うものである。ここに本研究の問題意識がある。本研究の目的は、スポーツ技術の新しい分析方法の開発にある。それゆえ、この研究のオリジナリティーは言葉の文法規則とスポーツ技術の関係を検討することにある。

3年にわたって言語の文法規則とスポーツ技術の資料(文献、映像)が収集され分析された。本研究を通じて、言語学的文法規則の観点からスポーツ技術を分析する可能性が考察された。

研究成果の概要(英文)：The movement in sport is needless to say the human movement. Form of movement appears there. This form is meant gestalt (Bewegungsgestalt). This human movement as gestalt (Bewegungsgestalt) have followed linguistic law, not only natural scientific law. Here is the problem - consciousness of the present study. The Purpose of present study is aimed to contribute to the development of the new analytical method of sport technique. The originality of this study is therefore in an examination of the relationship between grammar rules of language and sports technique. Over three years, materials (literature and visual) of grammar rules of language and sport technique is collected and analyzed. Through this study, the possibility of analyze of the sports technique from the viewpoint of linguistic grammar rules was considered.

研究分野：スポーツ運動学

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 身体教育学

キーワード：技術分析

1. 研究開始当初の背景

スポーツにおいて動き方としての技術は、今日、自然法則的あるいは合理的客観的な動きのメカニズムの解明という立場から、とくに力学に代表される科学的な分析ないし研究が押し進められている。しかし、スポーツにおける動き方としての技術はそうした“自然法則”的次元の問題性をもつだけでなく、“意味”的次元で取り上げられる問題性をも内包していると考えられる。この場合、スポーツの技術は広い意味で人間の意識によって実現されるという点に目が向けられ、その際には「行為」という視点をもつことが重要になる。このような視点をもつことは、言い換えれば、意識問題あるいは現象学的な問題化であり、このような問題化はすでに金子によって身体知の問題として取り組まれている(金子：身体知の形成，2005)。

このような意識問題を背景に、本研究の研究代表者である佐野は、技術としての動き方の分析は「言語 - 構造」の問題と同じ地平に立っているのではないかと考えるようになった(「スポーツ技術とコトバの規則」2004、「技術分析における意味類型の現象学的考察」2005 など)。すなわち、スポーツにおける技術を物的、力学的運動として自然法則の立場からではなく、言語学で言われるような「(文法的)規則」という立場から問題化できるのではないかと考えるようになった。

2. 研究の目的

今日、スポーツの技術は自然法則の問題としてバイオメカニクス立場から研究されることがほとんどであるが、本研究では、スポーツの技術(課題解決のための効果的な動きかた)を意識の問題としてとらえて、自然科学的なバイオメカニクスの分析を通して解明するのではなく、現象学的立場に立って、技術を言葉の規則と同じような規則として、運動行為の規則の問題として位置づけるこ

とによって、スポーツ技術の新たな分析方法の構築を目的とした。

3. 研究の方法

本研究は、現象学的立場を前提として、意識の法則性ないし言語的な「規則性」をわれわれのスポーツ技術の問題にも適用して、その「規則性」を検討することで、これまでにない新たな技術の分析法を打ち立てようとするものである。

本研究では、研究期間内に、以下のような方法でこの研究課題に取り組んだ。

(1) 今日の言語学の研究内容や言語理論を文献を通して調べる。すなわち、語学関連の文献を調査し、言葉にはどんな「(文法的)規則性」が指摘されているのかをまとめる。

(2) スポーツをはじめ、いろいろな領域における人間の「動き方」ないし技術に関して記述されている専門書や技術書など、文献(国内外)を調査し、動きの課題の達成に対して、良い動き方や悪い動き方がどのような判断基準のもとでなされているかをまとめる。

(3) 人間の日常運動や各種スポーツなどにおける課題達成の動きの映像(既成のビデオ映像やテレビ映像など)を収集する。映像はパソコン上で見られるように処理し、「動きの規則」の分析に資するようにした。このようにして得られたいろいろな場面での多様な動き方は、運動部分の順序、配列等の規則を見ていく際に重要な資料となる。そしてその収集された映像資料を、動きの発生の仕方という観点から整理し、そこに言葉に見られるような「規則性」があるかどうかを検討する。

(4) また、このような動き方の規則を考察

して行く際の補助資料として、運動の専門家との間で動き方の考え方（規則性）について意見交換し、それを考察に役立てるようにした。

(5) これら上記の作業から得られた資料に基づき、意識ないし言語の文法的規則と動き方の「規則性」との間の関連性について考察し、動き方としての技術の文法的「規則」に言及し、スポーツ技術の新しい分析方法論の可能性について検討する。

4. 研究成果

本研究は、「言語の規則性」(文法)をわれわれのスポーツの動きの技術にも適用して問題化し、スポーツの技術に、課題達成に関わるいわゆる“できる - できない”という意味の「動きの(文法的)規則」を主題化し、それを究明していく分析法を構築すべき、その可能性を探ろうとするものであった。

例えば、言葉で言えば、「文」は「事柄」(事態の意味)を表す言語の単位であり、記号としての文字や音によって表される。また、この文は「線状性」という性質によって単語が一行に並んで表される。さらにこの文は単語に分節されるが、その単語は無秩序に並んでいるのではない。そこには単語の並び方に「決まり」ないし「規則」がある。言語にはこのような文法上の「規則性」があることで、「事柄」(事態の意味)の理解や伝達を可能にしている。本研究では、このような言語の構造はスポーツ技術としての動きかたにも同じように問題化できるのでないかと考えた。「動きの(文法的)規則」という考え方はこうした問題意識から出ている。実際、運動現場においてわれわれは、スポーツにおける動きの全体や各局面における部分的動作を行為的次元で意味論的規則として取り上げることが非常に多い。本研究のアプローチ

は、現場の学習活動や指導実践で学習者や指導者が意識的、感覚的に取り上げる技術的内容を言語的地平の文法的意味合いで取り上げるものあると言える。

研究の主な成果は以下の通りである。

(1) 個々の領域で示される重要な動きかたとしてのスポーツの技術の内容に迫るには、実際に動きを体験する中で発生したコツの言語表現(外言)された内容を吟味することによってとらえることができる。

(2) 動きかたについて語られた(本人もそれを指導する人も)その内容を分析するということは、動きかたそのものが言語学的規則に従って生成していることを意味する。この点から、スポーツ技術は言語学的規則の地平における問題であることが明らかになった。

(3) スポーツ技術の分析方法として、直接、運動者本人に詳細に記述させることが重要であることが指摘された。なお、この場合の詳細な記述とは現象学的記述を意味しているが、本研究では、この詳細な記述方法までは立ち入ることはできなかった。今後、スポーツ技術の現象学的な記述方法について研究を進めていき、言語学的な技術分析の方法を推進していきたい。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計4件)

佐野 淳：発生運動学の方法論の反実証主義的性格，筑波大学体育系紀要，37号，41 - 52，2014。(査読有)

<http://hdl.handle.net/2241/121302>

中瀬雄三、佐野 淳：バスケットボールにおける状況の構造を読み解く身体知に関する考察，スポーツ運動学研究 26号：19 - 46，2013。(査読有)

寺田進志、佐野 淳：サッカー選手の動感特性に関する考察，スポーツ運動学研

究 26 号 : 95 - 106 , 2013. (査読有)

[その他] (計 1 件)

[講演]

佐野 淳 : 動感言語の問題性 . 第 26 回日本スポーツ運動学会大会 , 2013 . 3 . 28 , 茨城 (筑波大学) .

6 . 研究組織

(1) 研究代表者

佐野 淳 (SAN0 , Atsushi)

筑波大学 ・ 体育系 ・ 教授

研究者番号 : 5 0 1 7 8 8 0 2